

# 科学的証拠を待つのでなく 情報に対し理解を深め 予防原則の暮らし方を

稚内北星学園大学 前学長 齊藤 吉広さん

―今年3月、香害をテーマにした講義  
を行われて、全国から反響があったそう  
ですね。

この講義は、2020年度最後の市民  
向け公開講座でもあったので、学内関係  
者だけでなく広く市民の方々に知って  
いただきたいテーマをと考えました。そ  
こで、私自身が苦しんでいる「香害」への理  
解を深めていただき、そこに関わるメ  
ディアと社会の問題を概観することで  
私たちの暮らし方を皆さんと一緒に考え  
る機会にしたいと思っただけです。講義情  
報が大学のホームページに掲載される  
や、全国から「オンラインで視聴したい」  
など事務局に問い合わせが殺到し、急  
遽、YouTube配信をすることで対応し  
ました。

―このたびその動画を、友の会会員様  
先が隣人になってしまっているところ。良か  
らぬ物を作り出しているところ、企業に  
直結しない構図になっている。それは、こ  
れを使えば臭わないですよ、すばらしい  
ものですよ、企業が大量に宣伝し続け  
ていることが背景にあります。その宣伝  
を真に受けて、私たちはそれがいいもの  
だと思いきこんでいるんです。私自身、発症

限定で視聴できることとなり、ご厚意に  
感謝致します。

その反響から、香害で苦しむ方が相  
当数いらっしゃることを実感しました。  
講義公開が縁で「カナリア・ネットワー  
ク全国」を立ち上げることとなり、現在、  
全国に点在する当事者の声を集積する  
ホームページの開設を計画しています。  
香害の被害は、行政が実態調査を行う  
でもなく、被害の数や症状などの実態が  
分かりづらい状況にあります。どこで、  
誰が、どんな症状で苦しんでいるとい  
った声を一箇所に集めることで、被害の実態  
を全国レベルで可視化することが可能に  
なりますし、孤立しがちな被害者同士  
の横つながりの場所にもなります。

―われわれは、化学物質過敏症(以下、  
CS)の問題を取り上げる際に、比較的  
する前はそうだったから、身をもって言  
えます。  
―大量に、一方的に発信される情報を、  
いかに受け止めるのか。私たち二人ひとり  
の姿勢が問われています。

(「恐怖マーケティング」といわれる手法  
が、企業から発信される宣伝に用いら  
れることがあります。たとえば、柔軟剤や

撮影地：宗谷丘陵「白い道」。真っ白な道は、稚内ブランドの一つ、ほたて貝の貝殻を再利用したもの。

芳香剤の商品を販売するた  
めに、臭うと嫌われるぞ、と  
恐怖や不安をあおり、それ  
を解決するにはこれ、と。そ  
のような宣伝が行われる以  
前には、誰も気にしてなかつ  
たものを、まるで常識である  
かのように取り上げて扇動  
し購買に結びつけるんです。  
情報を鵜呑みにせず、理解  
を深め、何を選択するのか。  
今の情報社会で暮らす私た  
ちにとって、身を守るための  
大事な視点だと思います。  
―我々はい、「新成分配合、  
新技術で開発」などと聞く  
と、これまでよりも機能が高  
まったような錯覚に陥りがち  
です。

分りやすい入り口と  
して香害を警鐘してき  
ました。ですが、「香り」  
がなければ良いという  
問題ではないというこ  
とを感じています。

無香料なら問題は  
解消するという感覚で  
すよね。無臭を売りに、  
化学物質をさらに増強したであろうと  
思われる製品が回り始めています。香  
害の被害者にとって、香りがあることで、  
その場から逃げるきっかけにもなりえ  
たんです。しかし、香りが消され、無香料・  
無臭を隠れ蓑に化学物質が大量に漂う  
ようになると、逃げ遅れる可能性もあ  
るんです。問題は解消どころではなく、  
深刻な事態へと向かうこととなります。  
―香りのない、目に見えない化学物質  
が、さらに安易に、かつ簡単に蔓延する  
危険性ですね。

無香料を含め香料を含む製品に使用さ  
れる化学物質とCSの因果関係は科学  
的に証明されてはいないとされていま  
す。ゆえに、「危険だと証明されていない  
から安全なのだ」と使用され続けてい  
る。現在、日本には香害被害者が13人に

私自身、古いものよりも新しいものが  
いい、化学的に新しいものは機能的に優  
れているだろう、というような思い込  
みがありました。実際、石けんよりも新  
技術で開発された合成洗剤のほうが、  
きつと洗濯能力は向上しているのだらう  
という思い込みで合成洗剤や柔軟剤も  
使用していたんです。でも、CSを発症  
したことをきっかけに、石けんに変えて  
みた。すると、石けんのほうがはるかに  
機能的であることがわかったんです。な  
ししろ柔軟剤不要ですし、部屋干しして  
も、生乾き臭などまったく気にならな  
くなった。あれ？つて。

―香害や化学物質の問題にとどまらな  
い、暮らし全般に関わることですね。  
読者へのメッセージをお願いします。  
生活する上で、本当に必要な素材・機

一人だとも言われるようになりました。  
それが事実ならば、過去の公害被害者  
数と比較すると、大変な状況です。早急  
に調査に取り掛かる一方で、私たちは、科  
学的証拠を待つのでなく、疑わしきもの  
は使用しないなど予防原則に即った暮ら  
し方をすべきではないでしょうか。

―被害者以外には香害の重大さが伝わ  
りにくいのが問題ですね。  
私は5年ほど前に芳香剤がきっかけで  
CSを発症しました。ものすごい吐き気  
と息苦しさ襲い、「いい香り」が突然、  
「凶器」に豹変した。正確には「凶器であ  
ることに突然気づいた」といえるかもし  
れません。それから、柔軟剤にも強く反  
応し始めたので、家族に柔軟剤を使わな  
いほしいことを伝えましたが、当時は  
「ずっと使ってたのになんで？」と、なか  
なかつてもうえませんでした。

―香害はこれまでの公害とは違い、消  
費者同士が加害者と被害者になってし  
まう、という先生の考察も興味深いで  
す。香害の発生源である企業に矛先が  
向かないのが現状ですね。  
香りでも嫌な思いや不調になる人にとっ  
て、加害者がごく身近な人だったり、偶  
然、隣り合わせた相手だったり、その矛

能なのか？それは、環境やすべての人に  
やさしいものなのか？香害は、暮らしの  
中の大きな例題の一つなのだと思います。  
CSの当事者であるからこそ明言でき  
ることとして、シャボン玉石けんユーザ  
ーさんというのは、実に先進的な選択をさ  
れておられるのだと。これからも、香害  
のことも念頭におきつつ、石けんの輪を  
広めていただきたいと思います。

―貴重なお話をありがとうございました。  
た。われわれも、CS患者さんや「物言え  
ぬ」人たちを(誰一人取り残さない)取り  
組みを続けてまいります。これからもど  
うぞよろしくお願ひ致します。

マイページで、誌面に  
掲載しきれなかった内容を  
含めた完全版をお届け



公害としての「香害」

あなたのすぐそばにも、物言えず苦しんでいる人がいるかもしれません。「香害」、「化学物質過敏症」、その実態と社会構造的な問題点を概観。

齊藤吉広学長の最終講義の  
YouTube動画を友の会会員様  
限定でご覧いただけます(視聴は  
2021年12月31日まで)。  
(※)URLは下記にて記載。

今回お話ししたのは  
稚内北星学園大学 前学長

齊藤 吉広さん

旭川市出身。一橋大学社会学部から一橋大学  
大学院社会学研究科社会学修士。都留文科大  
学、都立短期大学など非常勤講師後、2000年  
から稚内北星学園大学にて専任講師、2009年  
教授。2015年に稚内北星学園大学学長着任、  
2021年3月退職。専門分野はメディアと社会。